

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970800286		
法人名	社会福祉法人 仁南会		
事業所名	つぶら・すじゃく		
所在地	奈良県御所市柏原721-1		
自己評価作成日	平成27年12月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970800286-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970800286-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成28年1月28日	つぶら	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

行動を抑制することなく気持ちや行動に寄り添うケアを目指している。  
特別な毎日ではなく当たり前の日々を自分らしく過ごすことができ、一人ひとりがそのひとらしく大切にされ、地域の中で生活できるよう支援いたします。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

介護老人福祉施設を母体とした11年目を迎える当ホームは、長閑な田畑が周りにありながら、JRの駅前という便利な場所に位置している。災害訓練や研修などは法人主催で行う等、法人の強みを発揮しながら地域に根差したホームを目指している。昨年、帰宅願望の強い活発な男性が入居された機に、行動を抑制しないケアの在り方を改めて見直すこととなった。ホーム独自の理念でもある「尊厳」。この理念を胸に刻み職員一同、一人ひとりが利用者本位、個別化を心掛けるケアを目指し実践している。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を唱和し、理念を共有し実践につなげている。	ホーム独自の理念をパンフレット、そしてホーム内にも掲示している。その中でも「尊厳」が一番とホーム長は強調する。利用者一人ひとりを「個別ケア」している。理念の共有の為、左記以外でもユニットごとに話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り参加や駅伝の応援などを通じて地域との交流に努めている。	ホームに絵手紙と書道の地域のボランティアが来てくれる。同法人特養のボランティア喫茶に行ったり、近くの駅前に季節の花が植えてあるプランターを並べ水やりをする時などに、近隣の方と触れ合う機会もっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段から近隣の方や面会の家族さんなどに挨拶や会話を心がけ、気軽に話しかけてもらえるような雰囲気大切にしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、そこで出た意見をもとに次へのサービスに活かせるよう取り組んでいる。	市担当者、地域区長、利用者の参加を得て2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの空き状況や行事などを報告をしている。今後は民生委員等地域の代表者を呼び込み、単なる報告だけでなく地域に根差す内容の話し合いができる会議となるよう期待する。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に意見をもらったり、相談、報告するなどしている。	法人全体として市担当者と連携している。運営推進会議の議事録や申請書類などを提出する際に相談したり、助言を受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の思いに寄り添うことを大切に考えて、施錠はせずに自由に出入りできるようにしている。	現在、帰宅願望があり、かつ活発過ぎる利用者が入居された。この方に寄り添いながら居心地のよいホームを目指す為に職員達は、日々試行錯誤を繰り返している。また身体拘束の中でも「言葉の抑制」には一番気を付けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、委員会や職員会議などで報告や連絡など行う。また各自が意識して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加を通じ、制度の理解に努めている。また現在成年後見制度を利用している利用者もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、質問などあればその都度説明させてもらうことで理解、納得していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や普段から利用者や家族の意見を聞くようにしている。ご要望についてもシートに記入し職員に周知するようにしている。意見箱を設置している。	意見や要望は利用者からは日常生活の中で聴き、家族からは訪問時や電話などで聴くようにしているが、現在のところあまり意見が出ていない。	地域密着型の事業所として機能していく為に、事業所単位の家族会を立ち上げ、利用者及びその家族の率直な意見や要望を聴き運営に活かす取り組みを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で個々の意見を自由に出し合い、話し合える場を設けている。	年1回の管理者との個人面談や、従来からの各ユニットごとで話し合い、それらの意見を管理者に上げる仕組みが改善された。前回の外部評価の課題であった「月1回の職員会議を開き、職員たちの意見を吸い上げ、それを反映させる仕組み」を立ち上げ実践している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個々に話す機会をもち、職員個々の能力に合った担当や希望に沿った勤務体制又は休暇をとれるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促したり、個別に指導を行ったりしている。また希望する研修へ参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他の事業所との関わりを持ち、お互いの意見を聞いたり検討したりすることでサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接で本人や家族の要望等を聞き、それに沿ったケアプランを作成することで安心した生活が送れるよう取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所前の面接時に悩みや要望など、じっくりと話せる環境と時間を十分にとり、希望にそえるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、ケアマネージャーと相談し、必要なサービスについて検討するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体のケアになるようにここの常態に合わせて家事や日常の作業を職員と一緒に行うよう取り組んでいる。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも普段のように伝えることで、家族さんとご本人の状態を共有できるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や外泊、面会など、自由にしていただけるようにしている。	お墓参りや行きつけのお店に行く支援をしている。毎年の初詣を行事とし、利用者が行きたい場所を順に巡る「馴染み支援」を試みたところ評判がよく、恒例の行事となった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすい座席の配慮や、レクリエーションや行事への参加を促している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の関係機関への情報提供を行ったり、家族や関係者の相談に応じたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から本人のニーズを探り出し、一人ひとりの意向にそえるよう取り組んでいる。	軽介護度の利用者が多い為、意見や要望を直接聴くことができるが、聴けない利用者は、ケア中の表情などから察知し把握している。前回の外部評価の課題であった「ADLや病歴だけでなくやり甲斐、生き甲斐を書く部分があるアセスメントの作成」が実現化されている。	前回の課題は実現化されたが、その様式を活用するまでには至っていない。利用開始時、そして繰り返しアセスメントをとる際に、その様式に記録された情報を一見しただけで本人の生き様等が見て取れるような活用方法を期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネから情報収集を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活スタイルを把握したうえで、入所後の日々の様子を観察し職員全体で共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場や連絡帳を使用しニーズを探り、家族や本人の意向も取り入れながら介護計画を作成している。	現場の職員が利用者の日常の様子を管理者と介護支援専門員へ伝え介護プランを作成している。前回の課題であった「本人のやり甲斐、生き甲斐が反映されたプラン」の実現については様式はそのまま、書き方で内容を変える事に対応している。	前回課題であった「本人のやり甲斐、生き甲斐を反映したプラン」について、意識して書面化されているが文面からはそれを読み取ることができなかった。今後は意識しながら書面化し、プランに反映される取り組みを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡帳の活用、職員内のミーティングを行うことで見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望があれば身体状況の変化に伴い、その都度可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の郵便局や店への買い物、病院など、希望があれば行けるように対応している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人が希望する病院へ受診できるよう支援している。	利用者希望のかかりつけ医の受診には家族が対応し、ホームの提携かかりつけ医に受診には月1回職員が対応している。歯科は希望者のみ対応し、皮膚科などにも受診の支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期、臨時での受診の際に医師に相談している。また状態によっては隣接している特養の看護師に協力を得ることもある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院相談課と随時連絡をとり情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来ることと出来ないことを伝え今後の事を一緒に考えて行けるよう、利用者や家族、関係者と共に支援に取り組んでいる。	重度化の対応や、終末期ケアの対応ができない事を利用開始時に本人や家族に説明している。当ホームでは、重度化された方は法人が運営する隣接の特養へ入居したり、医療が必要な方は病院へ入院と本人と家族の希望に沿った支援を図っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがありいつでも見られるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。また消防署の体験学習にも参加している。	法人合同で春と秋の年2回とホーム独自で年1回の避難訓練を行っている。飲料水や非常食の備蓄は法人全体で3日分用意している。非常時には、法人内の各事業所間で助け合える連絡体制をとっている。地域との連携が今後の課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけと対応をするように職員に周知し取り組んでいる。月1回マナー委員会などでも啓発している。	人格の尊重やプライバシーに関する研修を行い周知徹底を図り、トイレ介助や入浴介助時に利用者の自尊心を傷つけないよう気配りしている。業務の忙しさに追われて焦る時もあるが、そういう多忙な時こそ、常に利用者本位を胸に刻み心掛け対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、本人の思いを理解するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いににならないよう利用者の思いを優先した対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入浴後など整容には注意している。行事や外出時などは好きな服を選んで着てもらえるよう促している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いする利用者も少なくバラつきはあるが、テーブル拭きや配膳、下膳、食器洗いなど、できる範囲で参加してもらえよう取り組んでいる。	食事は特養の厨房で調理された料理を、ホームで利用者と一緒に盛り付けをしている。誕生日には利用者の好きな食べ物を用意したり、利用者と一緒にたこ焼きパーティーやおやつ作りもしている。外出や買い物帰りに喫茶に立ち寄ることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で栄養バランスは安定している。個々の食事状態を記録し管理している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、本人の状態に応じた介助法で口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援を行っている。	排泄パターンによるトイレ誘導のほかに、食事の前後にもトイレ誘導を行い排泄の失敗を少なくしている。これらの支援により、最高齢の103歳の利用者がオツム無しで生活ができており、またリハビリパンツから布パンツに替えた利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も使用するが、朝に冷たい飲み物や間食に乳製品を取り入れたり、腹部マッサージを行うことなるべく自然排便につながるよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日ですすめているが本人が希望すれば自由に入浴していただけるよう臨機応変に対応している。	利用者の要望を聴き、2日に1度の午後からの入浴としているが、本人の希望の日、また自由な時間に入る事が出来る。入浴拒否される方も、無理強いはいしないで、さりげないアプローチをして納得して入って頂けるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に応じて昼寝の時間をとっている。また眠る際の居室環境についても整備を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルがあり職員がいつでも見れる状態にし、内容や変化がわかるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や行事、クラブなどへの参加を促している。個々の趣味や興味のあることなどを聞き出し、好きなことをやってもらえるように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望あれば家族の協力も得て外出の機会をとっている。家族が対応できないときはグループホームでの外出時に個人の要望を取り入れるなどの対応をしている。	日曜日はドライブや買い物等利用者と一緒出かけている。外出行事として初詣、花見など車いすの利用者も一緒に出掛ける。寝たきりで重度の利用者については、離床を支援の目的として、ベッドから起き、着替えを済ませて居室から出るという支援を行っている。天気の良い日は庭や敷地内への散歩に毎日出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は自由にして頂いており、希望者がいれば現金を所持してもらえるよう体制は整っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望あれば職員が電話を取り次いでいる。またクラブで作成した絵手紙なども出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花やインテリアを飾り季節感を感じられるようにしている。また毎日の掃除で清潔を心がけ気持ちよく生活できるように取り組んでいる。	温かな光を感じながらオルゴールが流れる空間で、利用者は其々思い思いの時間を過ごしている。利用者の個性や性格などからテーブルの置き方を工夫したり、利用者が書いた書道などが壁に飾っている。リビング全体がさっぱりとした温かみのある空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスを設置したり、利用者同士が自由に会話できるように席の配置にも注意している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣れ親しんだものを持ち込んでもらえるようになっている。	居室には空調と洗面台はついているが、それ以外は何も置いていない状態で入居して頂くので、其々、思い入れのあるものを持ち込んで生活している。中には冷蔵庫を持ち込んで日々の買い物やおやつ等を購入している利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がわかりやすい声掛けや関わりをもったり、目印をつけたり、動作の際に安全に過ごせるよう環境整備に努めている。		